

資金不足の原因Ⅱ

会社の資金の不足の原因は3種類に大別されます。

1) 売上仕入資金の不足

資金会計理論では「**銭足らずの**」会社と説明しています。

売掛金の入金サイドと買掛金の支払いサイドの負けの事です。

制度会計では、売上仕入資金の不足について、損とみて、税金をその分差し引いてくれない為この資金が不足すると資金繰りが大変です。売上高がアップすると、資金の不足がさらに発生することになり、制度会計上業績は良いのにも関わらず、資金繰りがアップアップの状態になります。

この売上仕入資金の不足を補う為に、割引手形、短期借入金等の流動資金の調達で、充当している場合がほとんどです。

なお、業種によって「**銭あまる**」会社と、「**銭足らず**」の会社に分かれます。これは、その企業の特徴と考え良し悪しの判断とはしません。

2) 固定資金の運用の過大か資金不足の原因

受動的財務体質 その企業又は業種の財務の特徴、業種業態が
原因

能動的財務体質 経営者自身が原因

人間には「**くせ**」があり、さらに、それぞれに「**性分、性格、拘り**」等があります。その「**性分、性格、拘り**」等で財務体質がまるきり違ってきます。

例えば社用車

- ① 車の取得 受動的財政
- ② 車の車種 能動的財政
- ③ 車の価格 能動的財政
- ④ リース購入 能動的財政

固定資金の運用の不足を損益資金、固定資金の調達で補填出来れば良いのですが、短期借入金と未払金などで補填している場合は大変です。

3) 損益資金の不足

資金会計理論では、各資金のプラスマイナスの良し悪しを早計には判断しません。

しかし、損益資金のマイナスは論外とします。例えば、ここに10,000千円の現金があります。どの種類の現金が良いですか。

- ① 利益という現金 10,000 千円
- ② 資本金という現金 10,000 千円
- ③ 長期借入金という現金 10,000 千円
- ④ 買掛金という現金 10,000 千円
- ⑤ 短期借入金という現金 10,000 千円
- ⑥ 未払金という現金 10,000 千円

すべての人が①の利益 10,000 千円と答えるはずですが、理由は、

- ① 返金の必要がない
- ② 自由に使える

しかし節税と称してせつせと①の利益を消費している経営者がいるのも事実です。

この損益資金の不足を見る場合に、特に注意することは、

$$\text{損益資金} - \text{棚卸資金} = \text{マイナス}$$

になる場合です。このマイナスが大きければ問題です。

小売業で倒産した寿屋、オサダ等、倒産したわけではありませんがダイエー、業績が良いといわれているコジマ、ヤマダ電機等がこのパターンの財務内容です。

安定資金のマイナス

資金会計理論では安定資金を制度会計上の利益と見えています。

調達した現金も使えば無くなるように各資金のプラスとマイナスを集約して考えます。

安定資金がマイナスの場合は、

- ① 短期借入金
- ② 割引手形
- ③ 未払金等で

資金を調達して、補填されています。従って、短期の資金での調達なので資金繰りに苦労することになります。資金別貸借対照表に書いているように、まず安定資金をプラスにする為の財務方針を考え、試算表の表紙をブルーにする事、財務の健全化を図るため、出来ることを1つ1つ進めていくしかありません。